

熊本県立天草高等学校(定時制)令和5年度(2023年度)学校評価計画表

1 学校教育目標						
三綱領「正大・剛健・寛厚」のもと、求めて学び志を成す「地球(知究)市民」の育成を目指す。全日・定時・倉岳相互の連携を図りながら、個性豊かな人材の育成と、保護者・地域が信頼を寄せる学校づくりを推進する。						
2 本年度の重点目標						
①人権を尊重し生徒一人一人を中心に据えた心の教育の充実 ②SDGsの視点を持った生涯学習の基板づくり ③キャリア教育の推進 ④地域との積極的連携 ⑤働き方改革の推進						
3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	・魅力ある学校づくり	・学校行事等の充実は図られたか。	・学校行事に参加する生徒の割合は、8割以上を目指す。	・行事内容の工夫・精選。 ・生徒が参加しやすい環境の整備。 ・生徒への指導。	B	・予定どおり学校行事を実施することができた。 ・最近の総務部担当の行事の参加率は、2学期終業式95.5%、3学期始業式73.9%だったため、参加率の増加が課題である。
		・安心・安全な学習環境は確立できたか。	・一人一人の生徒が安心して授業に参加できるように、日々の学習環境を整える。 ・危機管理意識を高め事故の未然防止に努める。	・担任に限らずすべての職員が生徒からの相談・要望を聞き取れる関係を築いておく。 ・毎日の生徒情報交換会で一人一人の生徒の身体的・心理的状況を共有し把握する。 ・非常時の危機管理についての研修を行い、事故の未然防止の重要性を確認する。		・生徒登校時や休み時間に声掛けをしたり、授業開始前に授業への出席を促す声掛けを全職員で行ったりすることで、落ち着いた状態で授業を始めることができた。 ・1年次の授業では状況(生徒の理解度・要望等)に応じてティームティーチングを配置し、生徒が安心して取り組む環境作りができた。 ・配慮を必要とする生徒への対応について毎日の情報交換会や月1回の生徒連絡会を通して情報を共有したり、職員研修を実施したりしたことにより、突発的な事案への対応もスムーズにできた。 ・非常時における危機管理に関する職員研修を実施

						<ul style="list-style-type: none"> し、避難訓練も実施した。 ・病休・休職職員の授業のカバー、生徒への学習保障については課題が残った。
<ul style="list-style-type: none"> ・不祥事防止及び地域・保護者・生徒の信頼と期待に応える教育活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の危機管理意識の向上及び実践はできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他校の状況を参考にし、定期考査及び入試事務処理等の個人情報管理を徹底する。 ・不祥事を「0」にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報管理の共通理解事項について、確認シートを作成し全職員が共有する。 ・不祥事防止テキストを基に確実に実行する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度作成した不祥事防止テキストを教職員一人一人に配付し、セルフチェックシートと併せて、常に身近な所においていつでも確認できるようにし、意識啓発を図った。 ・教職員一人一人が、不祥事全般への関心を、自分のこととして捉えるために、新聞報道等があるたびに、記事等を紹介するなどして職員の規範意識高揚の徹底を図った。 	
					<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の公開は十分か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌の発行。 ・ホームページの充実。 ・公開授業の実施。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校改革 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務改革は図られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務環境を改善し、協働体制を整え、業務の効率化に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を出し合い、課題を認識すると共に全職員で共有・改善する。 ・DX化に取り組むことで、職員の負担軽減を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・労安懇話会を2ヶ月に1回実施し、職員から意見を聞くためのアンケートを行い、その内容について、校長・教頭・衛生推進者2名により協議する場を設け、改善を図った。 	
					<ul style="list-style-type: none"> ・授業改革は図られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領を念頭に、理解力や特性に応じて、より質の高い教育を提供する。それぞれの職員が

			授業方法及び評価法について改善を行う。	のあり方や教材研究に取り組み、授業と評価の改善を図る。		換をはかることができた。 ・補助的又は発展的な学習が必要な生徒には、適宜早く登校させて、個別指導を行うなどきめ細かな対応ができた。
	・業務改善及び働き方改革	・勤務超過時間の短縮は図られたか。	・勤務時間終了と共に残業を行わない。 ・年間年休取得15日以上。	・労安懇話会を通じて、常に職員の勤務時間をチェックし、呼びかける。	A	・学校行事等に応じて、勤務時間帯の柔軟な変更や年休・病気休暇等の積極的な取得、定時退勤の徹底等を進めることができた。
学力向上	・主体的に学習する習慣・態度の育成	・積極的な授業参加は図られたか。	・出席率90%以上を達成する。	・生徒と良好な人間関係を構築するために、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」姿勢を大事にして積極的な声かけを行う。 ・欠席や欠課が多い生徒には面談や家庭訪問を行い、保護者との連携など早めの対応を行う。	A	・出席率は全体で90%以上で、目標を達成することができた。 ・欠席が多い生徒が抱えている特性や課題については、教職員間で情報を共有するとともに、スクールカウンセラーやSSW、ハローワーク等の関係機関と連携を図り、さまざまな支援の在り方について検討し、生徒・保護者の支援にあたることができた。
		・学習習慣の確立は図られたか。	・課題や提出物の提出率60%以上にする。	・授業時の作品・プリント課題や長期休業中の基礎学力向上のための課題の提出状況を確認する。また教科担当者と連携し、未提出者を減らす。		B
	・指導力向上や授業充実に向けた取組	・授業評価の実施及び結果の活用はできたか。	・授業に満足している生徒の割合80%以上にする。	・年2回の授業アンケートを実施し、検証する。 ・授業改善を図り、生徒の要求に応じた分かりやすい授業を実践する。	B	・授業評価アンケートの結果では、授業の満足度は高く、わかる授業が実践できていると言える。 ・アンケートの結果を参考にしつつ、今後さらに生徒の意欲関心を引き出すために、全教科で体験的な授業を多く導入

		<ul style="list-style-type: none"> 研究授業の充実は図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の実情に応じた研究授業のあり方を検討し実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教務部で企画、日程調整を行い、研究授業、合評会を充実させる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> したり、タブレット端末を使ったりして、生徒の理解を支援する取り組みができた。 病休・休職した職員のカバー(授業・校務分掌)のため業務過多になり、その対策の一環として業務削減の観点から、止むを得ず中止にした。 次年度、常勤職員が配置され、研究授業、合評会が実施できるようになることが課題である。
キャリア教育(進路指導)	<ul style="list-style-type: none"> 個々の能力・適性に応じた就職・進学指導 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の能力を伸長する取組と適性に応じた就職・進学指導ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の生徒とのコミュニケーションを欠かさず、個別のニーズに応じて進学・就職準備を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が見通しを持てるよう、情報を提供する。 生徒のペースに寄り添った進路学習の支援を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員のアイデアと行動力で、生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな進路指導が実践できた。 生徒に応じた進路指導を行うため、面談のたびに記録や引き継ぎを文書等に残して利用できるようにしていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 社会人として必要な資質を身に付け働く意義を知る取組 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活全般を通じて、自らの役割を果たせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活全般を通じて、自らの役割を果たせるように役割の大小を問わず、一人一役を働かせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 希望者にインターンシップ事業を実施することができた。 必要に応じて柔軟なスケジュールが組めるようにしていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい勤労観・職業観の育成 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア意識の醸成は図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 未就労の生徒にはインターンシップを勧める。 就労中の生徒には声を掛け、仕事と自らの関係の振り返りを促す。 	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップや就労中の仕事を通じ、振り返りや問題の解決を通して望ましい勤労観や職業観を育成する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 企業見学を実施することができた。 次年度以降も生徒の希望を取り入れながら、職業観を育成できるような活動を行いたい。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立を図り、学校生活への適応を促進 	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識の醸成は図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校に楽しく登校できる環境作りを行い、遅刻・欠席を前年度の数字より減少させる。(欠席63回、遅刻219日(全学 	<ul style="list-style-type: none"> 登校指導及び各ホームルームで毎日声かけを行う。 毎月1回無欠席ウィークを設け、意識の高揚を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> 職員側からの積極的な声掛けを継続して実施してきたことで、職員と生徒のコミュニケーションが醸成され、円滑な学校生活が過ごせている。 コロナ感染症の5

		<ul style="list-style-type: none"> 年合計)) 生徒が互いに周囲の生徒とコミュニケーションを構築し、楽しい学校生活を送れるよう行事等を工夫する。 SNS等を正しく使用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各行事において生徒間の会話の機会を増やす取り組みをする。 SNSの利用について全校集会等の機会を捉え、正しい使い方を指導する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 類への移行により、各行事を行うことができた。各行事を通して、生徒同士のコミュニケーションが構築された。 SNS等の利用に関しては全校集会等の機会を捉え指導した。 機会を捉え、機会を逃さないように全職員で規範意識の向上に取り組んできた。
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒理解のための取り組みは十分か。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月生徒連絡会を実施し、全職員が生徒の実態を把握し、共通理解をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、各担任が生徒一人ひとりの職場・学習・生活の状況について報告することで、全職員で情報を共有し、対応策を話し合い、実践する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の始礼、毎月1回の生徒連絡会において全職員の共通理解を図り、生徒に対する理解を深めている。 生徒のわずかな変化を見逃さないように定期的な面談、必要に応じた随時の面談を実施した。
<ul style="list-style-type: none"> 年間を通した問題行動の未然防止 	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動の未然防止は図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別指導件数を「0」にする。 連絡会で気になった生徒については、担任・生徒指導部で早期に面談等を実施し、未然防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒理解に努め情報を共有し、職員の共通理解のうえ事前指導に重点を置き、早めに対応していく。 年間を通しての登校指導、校内巡視を実施する。 生徒のわずかな変化も見逃さず機会を捉え指導する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 特別な指導件数「0」を目指して未然防止に努め特別指導は無かった。 多くの生徒はアルバイト等でしっかりとした対応が出来ており、規範意識は身につけていると思われる。 全生徒が職員の中で誰かひとりにも心を開いて話せるような関係作りを行った。生徒にも一番話しやすい職員に悩み等を話すように伝えている。
	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故防止は図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 事故件数を「0」にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期休暇前や、全校生徒が集まる機会を捉え、注意喚起を行う。 交通安全教室を実施し交通事故防止に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室を開催した。 毎日の登校指導を実施した。 今年度の交通事故は原付による事故が1件発生している。軽傷ではあったが、今後も事故防止を目指して指導していく。
<ul style="list-style-type: none"> 生徒会 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会の主体 	<ul style="list-style-type: none"> 各種行事へ 	<ul style="list-style-type: none"> 各種の行事 		<ul style="list-style-type: none"> 今年度は行事を実

	活動及び学校行事の活性化	的な活動の支援はできたか。	の生徒会の積極的な関与を促す。	における企画立案への助言を行う。	B	施出来たが、ここ何年か中止していたので、未経験の生徒も多く、生徒会は苦労した。
人権教育の推進	・職員の人権感覚の向上	・職員研修の充実は図れたか。	・職員の人権意識の向上を目指し、研修の機会を確保する。(年間4回の研修実施)	・人権教育推進委員会で検討した内容について、職員会議などの場面を活用して共通理解を図る。 ・夏季休業中にオンライン形式での研修を実施する。	B	・担当者が作成した人権LHRの指導案について、生徒が自分の事として捉えることができるように委員会で意見を出し合い、指導案に反映させた。 ・夏季休業期間等にオンライン形式での職員研修を実施することができた。
		・自己実現のための支援は十分か。	・生徒自身に明確な将来像(目標)を確立させ、担任団および進路指導部と協力しながら、その実現に向け努力させる。	・考査期間を利用して、年間5回の個人面談を実施し、将来像を具体化させるとともに、就職差別の実態とその防衛策について考えさせる。	B	・面談週間で各生徒の進路希望把握などを行うことができた。卒業年次生徒については、進学・就職試験に向けての人権LHRを実施し、「言わない・書かない運動」について定着を図った。
いじめの防止等	・「命を大切にす る心を育む指導」の充実	・自尊感情の醸成は図れたか。	・生徒一人ひとりの自己肯定感、自己有用感、自己効力感等の自尊感情を育成し、「命を大切にす る心」を育むことの重要性を理解させる。	・自尊感情を高めるために、日常の言葉かけを積極的に 行う。 ・視聴覚教材や外部団体・講師等を活用し、ロングホームルームの内容の充実を図る。	A	・職員側からの積極的な声掛けを行い、一人ひとりを大切にしていることが生徒にも伝わり、自尊感情が醸成されたと思う場面が見られた。 ・交通安全、感染症予防を通して、自他の命の大切さを理解し、行動することが出来た。
		・いじめを見抜く力の育成は図れたか。	・校内でのいじめ「0」を目指すとともに、早期発見・早期対応を行う。	・生徒の現状把握に努め、いじめ防止・早期発見に努める。 ・各学期にアンケートを実施する。	A	・各学期にアンケートを実施し、いじめの訴えは「0」であった。 ・生徒理解に努め、共通理解を深め、日々の指導に生かしたことがいじめ防止に役立ったと思われる。
特別支援教育	・インクルーシブ教育の観点を踏まえた、特別な支援を必要とする	・生徒一人ひとりの実態把握に必要な支援の実施と、それを受けた評価、改善の実施ができたか。	・生徒連絡会で月に一度情報を共有し、支援方法を検討・実践する。 ・学びのUD化の視点を取り入れた授	・教頭や特別支援コーディネーターを中心に個別の支援及び指導方法について全職員で共通	B	・SCやSSWとの連携を密に行っており、生徒の状況把握や支援の充実につなげている。 ・毎日の始礼で生徒の情報を共有し、支援について全

	る生徒への適切な対応		業を行う。 ・生徒の実態に応じて個別の支援計画・個別の指導計画等の作成し、実践する。	理解を図り、SC・SSWと連携し、支援体制を整える。 ・支援についての連絡会、研修、外部機関と連携した支援会議を毎学期行う。 ・新入生に関しては中学校又は前籍校からの引継ぎがある生徒を中心に、個別の支援計画等を担任が作成する。		職員で話し合い、共有することができた。 ・新入生に関しては、引き継ぎのあった生徒や、相談してきた生徒を中心に、在籍していた学校に連絡を取るなどして情報を集め、SCやSSWとともに支援計画や方法を考えることができた。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	・統合型コミュニティ・スクール	・地域連携の組織づくり	・学校運営全般について、地域連携を図るための協議を充実させる。	・学校運営協議会で指摘のあったところを、職員でしっかり検討し、取り組む。また、その結果を分析する。	B	・年2回防災避難訓練を実施した。4月は、地震に伴う津波の発生メカニズムについて動画で学習すると共にタイムラインシートや学校近辺の急傾斜地の崩壊箇所の資料を配付した。また、4階までの避難訓練を実施した。9月は、シェイクアウト訓練と消防署員による訓話の後、水消化器による消化訓練を行った。その後、1年生は高台の避難場所まで避難訓練を行った。 ・年2回の学校評価アンケートを実施。全体としては、概ね好意的であるが評価の低い分野の改善が喫緊の課題である。
	・高校間の連携	・地域への情報発信	・年間を通じて生徒が地域ボランティアや地域行事に参加する。	・各方面からの参加の案内や地域広報などについて、生徒に周知し、積極的な参加を呼び掛ける。	C	・本年度のボランティア活動は天草マラソンのボランティアに一人参加したのみである。 ・今後は積極的にボランティア活動の周知を行い、参加を呼びかける。
健康安全教育	・健康に関する	・健康教育等の充実を図れた	・定期及び適時の保健指	・年3回学期始めに生		・「生活習慣チェック」の目標は、自

の推進	意識の高揚と環境保全意識の向上	か。	導を実施する。個々の生徒の状況や季節に応じて、指導を心がける。	活習慣をチェックし、睡眠・食事については個別に保健指導を行う。 ・月1回「保健だより」を発行する。 ・保健室前掲示板を活用する。	B	分で決めることが難しい生徒が多かったため、今年度は3回ともこちらで設定した。個別指導は保健室を中心に行ったが、知識はついていても実行に移すのが難しい場合もあった。 ・「保健だより」は毎月季節や生徒の健康状況、行事等に合わせた話題を扱うようにしている。「保健だよりは毎月ちゃんと見ている」と言う生徒もいた。 ・保健室前掲示板は、今年度は生活習慣の睡眠を中心に掲示したが、ストレス解消法などの行事と連動させた月もあり、生徒が関心を持って見る事ができるように工夫した。
		・学校給食の充実は図れたか。	・栄養面を考えた上で、可能な限り生徒が喜ぶ内容にする。	・生徒の要望を聴取し、予算の範囲内でパン・ジャムの種類を変更する。	B	・今年度は予算を上げてもらったが、単価も全て上がったため状況は変わらず、ジュースの余剰分をジャムに回したりしてやりくりを行った。 ・内容については定期的に生徒に要望を聞き取って変更するなど、できるだけ生徒達が食べやすくなるように工夫した。
		・環境教育の充実を図れたか。	・年2回のエコスクール週間を中心に生徒の環境意識を向上させる。	・エコチェックアンケートの実施と環境ISO委員会による集計・検証・改善を行う。 ・入学式で新入生の花道を飾るための花の球根植えを行う。	A	・エコスクール週間では、アンケートを通して生徒達が自分の生活をふり返り、電気をこまめに消すなどの生活改善を意識する機会となった。 ・今年度のチューリップ球根の植え付けをプランターから鉢に変更し、生徒達が土入れから参加できるように工夫した。
	・体力向上と安	・安全教育等の充実を図れたか。	・交通安全教育、薬物乱	・生徒指導部、保健体育		・今年度の薬物乱用防止教室は、天草

	全教育の推進	か。	用防止教室を実施する。	部及び関係機関と連携を図りながら企画する。	B	警察署生活安全課の方を講師にお呼びして講演会を行った。感想には、「しっかり断れるようになりたい」という感想が多く、講話を真剣に聞いていた様子も見られた。
		・体力・気力の向上は図れたか。	・定通体育大会、マラソン大会等、体育行事に積極的に参加させる。	・保健体育部が中心となり生徒一人ひとりに応じた計画的な指導を行う。	A	・定通体育大会、校内マラソン大会、ボウリング大会等体育的行事を実施でき、生徒は積極的に参加していた。 ・体育の授業において積極的な活動を行い、体力の向上を図った。

4 学校関係者評価

学校運営協議会を年2回開催し、定時制の取組について関係者へ報告を行うと共に意見をいただいた。また、生徒・保護者・振興会役員・職員に対して実施した学校評価アンケートの結果等も報告した(学校評価アンケートは令和5年(2023年)7月及び12月に実施している)。委員からは、出席率が90%以上であることから、不登校傾向にあった生徒や一人一人の生徒の特性等にきめ細かに対応し、丁寧に指導・支援にあたっていると話された。また以前と比較して、きちんと真面目に授業を受けていることや、アルバイト先で、とても真面目に働いており、大変助かっているとの評価をいただいた。一方でホームページ等を活用した情報発信の更新が遅れ、職員ブログもとまっていたため、これからもさらに力を入れて発信していくべきであるとのアドバイスをいただいた。今後も今まで以上に、教職員が一丸となって、生徒の情報共有・生徒理解及び組織的支援に努めていきたい。さらにこまめな情報発信を継続し、保護者や地域との信頼関係をさらに構築していきたい。

5 総合評価

本校定時制に在籍する生徒は、中学校や前在籍校で不登校傾向にあり、登校しても別室で過ごしていた者も少なくない。そのため基礎的・基本的な学習の定着に課題がある生徒もいる。さらには、コミュニケーションを苦手としたり、自尊感情が低かったりする生徒もいる。このような現状を踏まえて、教育目標及び重点目標に沿って日々の教育活動にあたった。

- (1)「人権尊重の精神の涵養と基本的な生活習慣の確立に努め、豊かな人間性の育成を図る。」
生徒一人一人の特性に応じたきめ細かな支援を行うために、全教職員で生徒に関する情報共有を徹底するとともに、必要に応じて外部専門機関(SC、SSW)との連携を図った。また、生徒が互いの特性や違いを理解し、相互に尊重し合うことができるように、様々な観点から人権教育に取り組んだ。さらに、勤労観や職業観を育成するためにキャリア教育の内容の見直しを行った。その結果、日常生活において、協調性や相手を思いやる言動、進路意識を持った行動が見られるようになった。
- (2)「基礎学力を充実させ、勤労と勉学との両立を図り、生徒一人ひとりの自己実現を目指す。」
ハローワーク等外部機関と連携してアルバイトの奨励を行い、職業教育の充実を図った結果、生徒の就労率は54.2%(24名中13名)であった。夏休みには生徒2名(天草広域連合中央消防署、トリミングサロン)がインターンシップを経験している。地域社会における学びを通して自己有用感と社会的責任を実感し、意欲的な勤労意欲が培われるとともに、学習意欲の向上にも繋がった。
- (3)「SDGsの視点を持ち、主体的・継続的に学びに取り組む態度を養い、生涯学習の基盤を培う。」
SDGsの視点から、毎年教育の日講演会で、地元の伝統工芸品についての学びに取り組んでいる。今年度はガラスアクセサリー製作を行い、地元の振興について学習した。また、環境教育においても、軽食で飲む牛乳パック等については、必ず折りたたんで捨てるように指導し、ゴミの分別等も継続的に行い、身近な環境について日常的に考えさせている。
- (4)「体力の向上、心身の健康の保持増進及び安全教育の充実を図る。」
生活習慣チェック週間を毎月設定し、睡眠や食生活等の基本的な生活習慣について生徒の自覚を促し、生活リズムを確立するよう随時指導を行った。また、体育的行事への積極的参加を促し、定時制・通信制の体育大会では、バドミントン女子団体の部で総合優勝という成績を収める

ことができた。定時制・通信制の文化大会では、生活体験発表部門で、熊本県代表に選ばれ、第71回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会に出場できた。1月の校内マラソン大会は、授業をとおして練習に励み、全力で頑張る生徒の姿が見られた。今後も様々な工夫を凝らしながら、体力向上を図っていききたい。

(5)「地域で唯一の定時制課程の高校として、地域に開かれた学校づくりに努める。」

生徒の日々の学校生活を記事にした「定時制新聞」を、保護者・出身中学校・地域の関係機関等に配布した。ホームページは最新の情報を掲載することで「生徒の今」を伝えることができた。昨年度から始めた職員ブログが継続できていないため、職員から見た定時制の様子をそれぞれの言葉で伝えることを、これから継続していかなければならない。

また、生徒のキャリア形成支援のための進路に関する研修で個に応じた指導や支援のあり方について共通理解を図るとともに、キャリア教育を充実させ、生徒の勤労意欲向上に努めている。進学希望者に対しては個別学習(課外授業)を実施し、今年度は英語検定に2人挑戦している。

6 次年度への課題・改善方策

天草地域における唯一の定時制課程の高校として、個別の支援を必要とする生徒の学びの場、不登校傾向にあった生徒の学び直しの間として、年々定時制の必要性が高まっている。特に、生徒一人ひとりに応じた支援体制の構築については、教職員が常に寄り添った丁寧な対応を心掛けたことで、一定の成果を上げることができている。引き続き教職員全体で共通理解を図りながら、緊密なコミュニケーションを念頭において、保護者や関係機関と連携した支援を実施していきたい。

次年度への課題としては、

- (1) 社会に出てからも自立していける人材の育成を目指し、基本的な生活習慣の確立に引き続き取り組む。
- (2) 基礎学力定着のために、教職員のコミュニケーション力の更なるスキルアップを図る。
- (3) さまざまな課題のある生徒の支援について、教職員全体で共通理解を図りながら、外部の専門機関と連携を取りながら個々の教育的ニーズに対応していく必要がある。